

地 域 連 携

はびきの Medical Net

FUTURE 感染症内科 「肺MAC症の最新の話題」

- ・ PICK UP
- ・ はびきのパーソン
- ・ 地域連携NEWS

リハビリテーション科
医局 薬局
皮膚科

「大阪はびきの医療センター皮膚科は3本の柱で地域の医療をサポートします」

- ・ 診療局長就任のご挨拶
- ・ 新任医師のご紹介
- ・ 連携医療機関のご紹介





肺MAC症の 最新の話

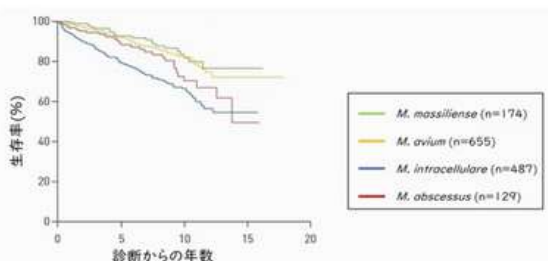
肺MAC症治療はCAM（クラリスロマイシン）登場以来30年程度大きな変更がありませんでした。近年アメリカ胸部疾患学会、イギリス胸部疾患学会等よりガイドラインが示され、本邦においても2023年日本結核非結核性抗酸菌症学会、日本呼吸器学会より見解が示されました。

非専門医の先生方にも知っておいてほしい情報を紹介させていただきます。

MAC症とは言わない？

従来Mycobacterium aviumとM.intracellulareを併せてMACとされてきましたが、薬剤感受性試験にてMIC（最小発育阻止濃度）分布が異なる事、予後が異なる事（図1）などよりMAC症と総称することは適切ではありません。それぞれ肺M.avium症、肺M.intracellulare症とすることが推奨されています。重要なことは抗酸菌培養陽性時に同定検査をオーダーいただき、非結核性抗酸菌が同定された場合には遅発育性抗酸菌用MICプレートにて感受性検査をオーダーください。

(図1)
代表的な菌種別、非結核性抗酸菌症の長期予後



Byung Woo Jhun, et al. Eur Respir J.55:1900798.2020

診断に関して胃液、抗MAC抗体も有用です

2024年暫定的診断基準として、

1. 肺MAC症の初回診断時に限り、臨床的基準を満たし、1回の喀痰検体で培養陽性かつ抗GPL-core IgA抗体陽性。
2. 臨床的基準を満たし、胃液検体で培養陽性の場合、喀痰検体で1回以上の培養陽性が示されました。

付記として以下が示されていることに留意ください。

- * 暫定的診断基準はわが国の基準であり国際ガイドラインでは認められていない。
- * 通常、本疾患では検体採取には十分な時間的余裕があり、抗GPL-core IgA抗体、胃液を利用した診断は喀痰を得ることが難しい状況に限定すべきである。
- * 暫定的診断基準を満たした後も、検体採取を継続し、国際ガイドラインの診断基準を満たすよう努める。

お年寄りには治療は不要？

2020-国際ガイドラインでは、喀痰抗酸菌塗抹陽性あるいは有空洞例には治療を開始することが推奨されており、年齢によらず忍容性、基礎疾患、画像所見の推移、菌種などを加味して治療の要否を判断すべきであるとされています。

【経歴】

1994年自治医科大学卒業。大阪府立病院、当センター呼吸器グループ、徳島県国保木頭村（きとうそん）診療所所長等を経て、2000年より当センター勤務、2017年より現職。
抗酸菌真菌感染症を専門としている。

有空洞例に内服薬だけでも大丈夫？

①空洞を有する例、②重度の気管支拡張病変を認める結節・気管支拡張型、③マクロライド耐性例には治療初期にAMK（アミカシン）点滴あるいはSM（ストレプトマイシン）筋注を含めることを推奨している。投与期間は3ヵ月以上、最長6ヵ月までの使用を考慮すると方針が示されています。治療開始時よりのアミノグリコシド製剤併用が必要となります。

治療開始後排菌停止が得られませんが...

これまで難治例に対する標準治療は提示されていませんでしたが、ALIS（アミカシン・リボゾーム懸濁液吸入）を含めた治療方針が示されました。ALIS導入には患者教育が必須となります。

さいごに

非結核性抗酸菌症は治療導入をすべきか、あるいは投薬内容の見直しなど専門医も悩まされます。NTMの診断治療にお悩みの際はお気軽に当科へご紹介ください。

（表1）肺MAC症の標準治療

病型	治療レジメン	
● 空洞のない結節・気管支拡張型（重症は除く）	A法かB法のいずれかを用いる	
	A法：連日投与 CAM 800mg or AZM 250mg EB 10～15mg/kg（750mgまで） *RFP 10mg/kg（600mgまで）	B法：週3日投与 CAM 1000mg or AZM 500mg EB 20～25mg/kg（1000mgまで） *RFP（600mg）
● 線維空洞型 ● 空洞のある結節・気管支拡張型 ● 重度の結節・気管支拡張型	A法+治療初期（3～6ヵ月）に以下を併用する ● SM 15mg/kg以下（1000mgまで）週2～3回筋注 あるいは ● AMK 15mg/kg連日 or 15～25mg/kg週3回点滴、TDMで調節 （50歳以上の場合8～10mg/kg週2～3回、最大500mgまで、TDMで調節） 必要に応じて外科治療の併用を検討	
● 難治例（多剤併用療法を6ヵ月以上実施しても細菌学的効果が不十分な患者）	A法に以下のいずれかを併用する ● ALIS 590mg/日吸入 あるいは ● SM 15mg/kg以下（1000mgまで）週2～3回筋注 あるいは ● AMK 15mg/kg連日 or 15～25mg/kg週3回点滴、TDMで調節 （50歳以上の場合8～10mg/kg週2～3回、最大500mgまで、TDMで調節） 必要に応じて外科治療の併用を検討	

日本結核・非結核性抗酸菌症学会 非結核性抗酸菌症対策委員会, 日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会. 結核. 2023; 98(5): 177-187.

PICK UP リハビリテーション科



当センターでは理学療法士6名（非常勤含む）、作業療法士1名、言語聴覚士1名、ドクタークラーク1名の計9名で業務に従事しています。

施設基準としては呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)、運動器リハビリテーション料(Ⅰ)、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)、脳血管疾患等/廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)、がん患者リハビリテーション料を取得しています。

リハビリテーション室

当センターの6階、南東側にリハビリテーション室があります。天井高が3.3mあり、窓からは金剛山や葛城山を望み開放的な空間となっています。

診療としては入院患者治療を中心に行っており、一部外来での心臓リハビリも実施しております。呼吸器疾患患者が全体の6割以上を占め、在宅酸素導入に向け労作時酸素化評価や動作要領指導、携帯酸素機器の選定を行っています。

年々、リハビリテーション科への依頼件数は増加してきており、近年では整形疾患や循環器疾患、がん疾患の依頼が増加してきています。2025年度の実績としては、実施人数が14,000人程度、実施単位は19,000単位を超える結果となりました。



言語聴覚士

言語聴覚士は主に摂食嚥下リハビリテーションを実施しています。各科から年間350件以上の依頼があり、年々依頼件数は増加しています。

当センターでは嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査ともに実施可能ですが、最も特徴的なのは週に1回実施している嚥下回診です。耳鼻咽喉・頭頸部外科医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、薬剤師とともに内視鏡検査を実施しつつ病棟をまわっています。多職種で回診することにより嚥下障害患者に対する服薬方法の検討など、きめ細かい対応が可能となっています。

院内チーム活動

部署内や各病棟でのリハビリカンファレンスに加え、多職種連携として、ICU/HCUでの早期離床・リハビリテーション加算の算定やカンファレンスの実施、排尿ケアチーム、オレンジチーム（認知症患者や、その家族の支援ニーズに合った具体的な支援に繋げるためのチーム）、嚥下回診等、多くのチーム活動を行っています。

→病棟でのリハビリカンファレンスの様子。
患者さんに寄り添った医療を提供できるように皆で意見を出し合います。



人材育成・研修プログラム

新卒採用者の育成に力を注いでおり、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士は採用1年目に大阪府立病院機構5センターでのリハビリテーションを経験し、幅広い知識や技能の習得と専門職として望ましい品格を身につけ、各所属センターにて臨床実践ができることを目指しています。

また、入職後も5センター間での人事交流として短期～中期での専門研修も実施しております。



大阪急性期・
総合医療センター



大阪はびきの
医療センター



大阪精神
医療センター



大阪国際
がんセンター



大阪母子
医療センター

ピックアップ

～ 当センターのスタッフを紹介します ～

はびきのパーソン

当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るく頑張っています！
少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただけると幸いです

医務局

アレルギー・リウマチ内科 主任部長

松野 治

Osamu Matsuno

ワンコと充実した毎日



10年ほど前から低山登山に夢中になった。奈良では二上山や金剛山、兵庫では六甲山をよく訪れた。京都や滋賀、和歌山の名の知れた山々にも登り、そのたびに新たな発見があった。登山を始めた頃の私は、体力がまるでなかった。二上山の登山ですら一苦勞で、息を切らしながら一步步進むのがやっとだった。しかし、続けるうちに脚力がつき、より高い山へ挑戦できるようになった。毎年のように上高地へ足を運び、焼岳や西穂高独標にも登った。そうやって、一步步自分の世界を広げていく感覚が楽しかった。

最初の頃はどこへ行っても初めての景色が広がっていて、新鮮な気持ちで登っていた。しかし、関西の名の知れた山々を登り尽くし、コロナ禍で体調を崩したこともあって、次第に登山へ行く回数は減っていった。そんな中、2023年8月に家族が増えた。ボストンテリアのワンコである。彼女は驚くほど可愛く、まるで実の娘のように感じている。

週末や休日は、この子と一緒に散歩へ行くのが何よりの楽しみになった。モンベルで犬用のリュックを購入し、ワンコと共に登山にも出かけるようになった。一番最初に登ったのは生駒山だった。驚いたことに、彼女は坂道をものともせず、軽やかに登っていく。その速さについていくのがやっとだったが、その姿に感動し、心が弾んだ。

ワンコは普通の道路よりも山道が好きらしい。山の中では彼女の目が輝き、嬉しそうに駆け回る。普通の散歩も長距離を歩くことが多く、大阪城まで数時間かけて散歩することもある。登山の頻度は減ったが、ワンコとの時間が増えた。彼女のおかげで、毎日がより楽しく、充実している。登山とはまた違った形で、新たな冒険が始まったような気がする。



思い出の写真たち



薬局
製剤 薬剤師
松下 一樹

Kazuki Matsushita

旅行最高！！



↑メキシコのカンクンにて

当センターに入職して9年目の薬剤師の松下です。

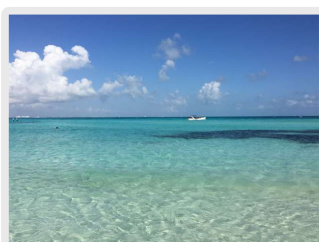
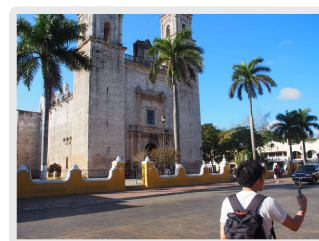
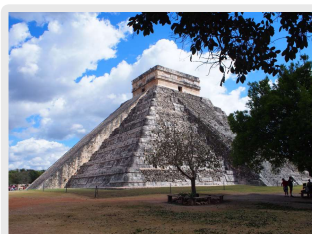
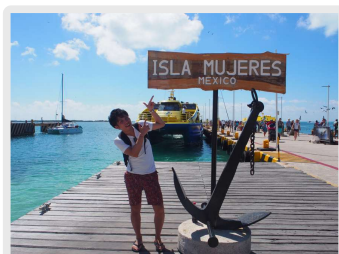
私は非日常を感じられる旅行が好きで、休日には家族や友人と色々な所に行きます。

コロナ禍で旅行があまり行けない時期もありましたが、最近では北海道や沖縄に家族で旅行に行きました。

これまでに行って一番良かった旅行先は、メキシコのカンクンです。ビーチリゾートなのですが、メキシコの方の陽気な雰囲気と、エメラルドグリーン色の海が忘れられません。（ただ、約15時間の飛行時間でオシリが割れそうになりました）

皆さんのおすすめ旅行先があれば教えてください。

思い出の写真たち



大阪はびきのセンター 皮膚科は3本の柱で 地域の医療をサポートします



【経歴】

1983年卒 広島大学医学部附属病院、大阪船員保険病院の勤務を経て、
1996年より当センター皮膚科へ赴任。2006年より現職。
アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、皮膚アレルギー、膠原病、皮膚心身医学等を専門としている。
日本皮膚科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会指導医（皮膚科）、日本心身医学会心身医療
「皮膚科」専門医、大阪府難病指定医

皮膚科 主任部長

片岡 葉子

当科は全国有数の皮膚アレルギー専門施設です。しかし皮膚疾患の原因や対応は多岐にわたり、地域医療においては3つのミッションを意識してほぼすべての皮膚疾患に対応させていただいております。

皮膚科専門医の少ない南河内地区においては、プライマリケアの先生方のご協力と円滑な連携が必須と考えており、ご紹介いただいた症例を隔月で報告するWEB症例検討会“はびきのDチャンネル”もご活用ください。

I. 難治性皮膚疾患の治療

- 重症薬疹診療認定拠点病院：全身症状をともなう重症薬疹を含む、薬疹の治療に対応。
- 自己免疫性水疱症（類天疱瘡、天疱瘡など）：計画的な治療によりステロイドの長期大量投与を回避。重症例では腎臓内科の協力による血漿交換や免疫グロブリン大量療法、難治性天疱瘡に対するリツキシマブの投与。
- 化膿性汗腺炎：近年複数のバイオ製剤が保険適用となりましたが、薬物療法だけでは効果不十分な例も多く、適宜手術療法を組み合わせる治療。
- 難治性皮膚潰瘍：皮膚潰瘍の原因を検討し対応するとともに、褥瘡などの難治性潰瘍には局所陰圧閉鎖療法（VAC®）を活用。
- その他の難治性疾患：乾癬、脱毛症などの難治例には、紫外線治療（NARROW-BAND UVB全身照射、308NMエキシマライト）や、バイオ製剤、JAK阻害薬内服などの全身治療。



←写真1：「血漿交換療法」は重症薬疹や水疱症、一部の膠原病にも適応があり、安全かつ速やかな症状改善を期待できます。



←写真2：「陰圧閉鎖療法」は難治性潰瘍の治療に有効です。写真は二次感染改善直後の褥瘡に実施中の持続洗浄を併用した陰圧閉鎖療法。

II. 急性皮膚疾患の入院治療・皮膚腫瘍の切除

蜂窩織炎、褥瘡感染、带状疱疹、熱傷、皮膚腫瘍切除（遊離植皮含む）など入院加療の必要な皮膚疾患に随時対応。高齢化に伴わない皮膚悪性腫瘍は増加しており、局所麻酔で切除可能な早期治療を推進。

III. アレルギー疾患

- アトピー性皮膚炎：乳児から成人まで全年齢の重症・難治例に対応。確立された1週間の教育入院プログラム“アトピーカレッジ”経験者はコントロール・アドヒアランスともに良好で、患者様にもクリニックの先生方にも好評。抗体製剤などの新規全身治療薬の経験数も多く、症例ごとに既存治療薬と新規治療薬の適切な使い分けを決定。
- 薬剤アレルギー・成人食物アレルギー：皮膚テスト等による原因アレルゲンの追求とともに、負荷試験を積極的に実施、最小限の除去によるQOL向上に尽力。
- その他：接触皮膚炎の原因精査、難治性蕁麻疹の治療など難治性皮膚アレルギー疾患すべてに対応。

診療局長 就任のご挨拶



診療局長／呼吸器内科 主任部長 森下 裕

【経歴】

1992年卒 大阪大学医学部附属病院等の勤務を経て、
2008年より当センターへ赴任。2023年より呼吸器内科主任部長に就任。
びまん性肺疾患、COPD、呼吸不全など良性の呼吸器疾患を専門としている。
内科学会認定内科医・指導医、呼吸器専門医、医学博士

2025年4月付けで診療局長に就任いたしました森下 裕と申します。2008年に当センターの呼吸器内科に赴任して以来、COPDや間質性肺炎などの呼吸器疾患や呼吸不全患者の診療に携わってまいりましたが、2023年の新病院開院とほぼ同時に呼吸器内科主任部長に就任し、肺腫瘍内科と力を合わせて肺がんも含めた呼吸器疾患全般の診療を行ってまいりました。

以前から当センターには地域の呼吸器疾患患者の診療に対しての高いニーズがあると承知しており、それに応えるべく最善の診療を行えるように取り組んできたつもりでしたが、人員面等から十分にはお応えできていなかったところもあるかと存じます。

今後は当センターの診療局長として呼吸器内科のみならず主に内科系の診療科全般を統括する責任を負う立場となり、少しずつ今までの問題点の改善を図って地域の先生方とさらにスムーズな連携を取り、地域医療により一層貢献できるように努力してまいります所存です。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

新任医師のご紹介

Welcome

消化器外科

かしわざき まさき
部長 柏崎 正樹



肝胆膵外科を専門に研鑽を積んで参りました。地域の先生方のニーズにお応えできるよう努めてまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

消化器外科

ふくだ しゅういち
副部長 福田 周一



開腹手術と腹腔鏡手術の両方を行ってきました。患者さま一人ひとりに応じた手術を行っていきたいと思います。大阪はびきの医療センターに来てよかったと思っていただけるよう、誠意をもって診療にあたらせて頂きます。

消化器外科

いずたに ゆうすけ
診療主任 泉谷 祐甫



患者さん一人ひとりが安心して治療を受けられるよう、丁寧な対応を心掛けています。疾患や治療に対する不安を少しでも和らげ、最適な治療を提供できるよう努めます。

肺腫瘍内科

ますひろ けんたろう
医長 益弘 健太郎



4月より着任しました益弘と申します。これまでは大阪けいさつ病院、大阪大学附属病院などで勤務しておりました。以前、大阪はびきの医療センターに勤務していた時期もあり、前以上に励んで参ります。

肺腫瘍内科

わだ ひろみ
医員 和田 紘実



本年度より配属となりました、肺腫瘍内科医師の和田紘実と申します。より専門性の高い医療を学びつつ、患者様へあたたかい医療を提供できるように尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

画像診断科

こばやし あい
医長 小林 亜衣



4月より大阪はびきの医療センターに赴任いたしました。放射線科医として、CTやMRIなどの画像診断により体内の状態を調べ早期発見や適切な治療ができるように尽力致します。地域医療に貢献できるよう努めたいと思っています。よろしくお願いいたします。

小児科

よねだ ともし
診療主任 米田 智樹



私自身も幼少期に卵アレルギーでした。アレルギーを含む小児一般疾患をお持ちのお子様に関わりながら診療を行い、地域医療に貢献させていただきます。

小児科

じょうかく りょうすけ
レジデント 上角 亮介



2025年4月に大阪はびきの医療センター小児科に赴任いたしました、上角 亮介と申します。これまで培ってきた一般小児臨床力を現場で活かし、生まれ育った南河内地域の医療に貢献できるように尽力して参ります。

小児科

こすげ えみ

レジデント 小菅 英美



はじめまして。4月より着任いたしました小菅英美と申します。昨年まで東京にて勤務しておりました。患者様やご家族が安心してより良い医療を受けて頂けるよう、尽力して参ります。よろしくお願いいたします。

小児科

なかはら こうすけ

レジデント 中原 康輔



はじめまして。医師6年目の中原 康輔です。実は、一昨年の1年間いたので、もしかすると覚えていらっしゃる方もいるかもしれません。昨年は、阪大病院で修行をし、パワーアップして戻ってきました。よろしくお願いいたします。

小児科

こくぶ とおる

レジデント 國府 徹



この度、大阪はびきの医療センターで勤務させていただくことになりました國府徹です。初期研修後に淀川キリスト病院で小児科として2年間勤務していました。学びながら地域医療に貢献できるように努めて参ります。何卒よろしくお願いいたします。

呼吸器内科

かとう そういちろう

医員 加藤 聡一郎



兵庫県の丹波で初期研修を行い、大阪の池田で2年間後期研修を行い、そして大阪はびきの医療センターでお世話になることとなりました。まだまだ未熟ですが、その分丁寧に精一杯頑張りますので何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

感染症内科

やまぐち りょうた
インテント 山口 良太



令和7年4月より、大阪はびきの医療センターの感染症内科にて勤務させて頂くこととなりました。南河内地域の地域医療に貢献できるよう日々精進して参ります。よろしくお願いいたします。

消化器内科

いとう きみこ
伊藤 公子



4月から非常勤ではありますがお世話になります伊藤と申します。上下部内視鏡を中心に少しでもお役に立てればと思いますのでよろしくお願いいたします。

腎臓内科

しばもと しんいち
医員 芝元 心一



4月より赴任しました腎臓内科の芝元と申します。河内長野市出身ですので、馴染みのある南河内の医療へ少しでも貢献できるように尽力致します。よろしくお願いいたします。

産婦人科

しゃの こうだい
医員 車野 晃大



今年度より大阪はびきの医療センターに赴任することとなりました車野 晃大です。大学・初期研修は札幌で行い、昨年から関西に戻って参りました。至らぬ点多々あるかと思いますが、ご指導の程よろしくお願いいたします。

産婦人科

たけだ かな
医員 竹田 佳奈



この度、大阪はびきの医療センターに赴任しました竹田と申します。これまで奈良で産婦人科専攻医として勤務しておりました。これまで学んだことを活かしてこの地で貢献できるように頑張りたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いします。

皮膚科

べっしょ ふみたか
レジデント 別所 史健



はじめまして。皮膚科医として、4月よりお世話になります別所 史健と申します。実家は堺市ですが、大学より岡山に行き、はや10年以上経ちました。久しぶりの大阪ですので、張り切って診療に邁進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

皮膚科

じょうかく ゆうと
レジデント 上角 祐人



皮膚科専攻医2年目の上角 裕人と申します。はびきの医療センターでは、アトピー性皮膚炎の患者様の割合が高く、患者様に信頼頂けるよう精進致しますので、よろしくお願いいたします。

皮膚科

まつお ゆか
レジデント 松尾 有華



皮膚科・専攻医1年目の松尾 有華と申します。研修医から専攻医と立場も変わり、まだまだ知らない事だらけで至らない点多々あるかとは思いますが、毎日の経験と学びを大切に、一步ずつ前進できるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉・頭頸部外科

さかい さえ
レジデント 坂井 沙映



耳鼻咽喉・頭頸部外科の坂井と申します。この4月から専攻医として勤務致します。まだまだ駆け出しで分からないことも多くありますが、上級医の先生方のご指導を仰ぎながら、1日でも早く戦力となれるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

連携医療機関（登録医）のご紹介

しみずこどもの丘クリニック

院長 清水 宏明 先生

〒583-0872 大阪府羽曳野市はびきの3-7-4
ウェルビーイングはびきの 1F

電話 072-957-3194

URL <https://shimizu-koc.com/index.php>



当院は令和6年5月に大阪はびきの医療センターの敷地内に小児科を開院いたしました。新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ隔離室を増やし、診察室合わせて8室設けています。感染リスクが高い疾患が疑われる患者様に対しては、まず感染ゾーンの隔離室に待機していただき、感染拡大を予防します。また大阪はびきの医療センターとの連携により、食物アレルギー、気管支喘息、舌下免疫療法、アトピー性皮膚炎の治療の質の向上をめざします。どうぞよろしくお願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	/
15:00～16:30	○	○	○	/	○		/
16:30～19:00	○	○	○	/	○	/	/



15:00～16:30：予防接種・乳幼児健診・慢性疾患

：12:00～13:00 予防接種・乳幼児健診のみ

たなか内科

院長 田中 裕之 先生

〒580-0021 大阪府松原市高見の里4-8-31

電話 072-338-6338

URL <https://tanakazaitaku.com/>



在宅医療は常勤医2名とたなか内科訪問看護ステーションにて、ケアプラン、訪問リハビリ、訪問看護を行っています。大阪はびきの医療センター様とは、肺がんや肺炎などの紹介や通院困難な呼吸器疾患患者さんの往診依頼などで連携させていただいています。かかりつけ医としては、患者さんの健康寿命を維持していくことが大事です。具体的には、生活習慣病とがん検診だと思っています。そのために服薬や検査がなぜ必要なのか、しっかり理解してもらえる説明を心がけています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～12:00	○	○	/	○	○	○	/
16:30～19:00	○	○	/	○	○	/	/

受付時間は診療の30分前より



登録医へのご登録のお願い



当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。
ぜひ登録をお願いいたします。

地域医療連携室より 事前に予約をお取りください



紹介状があっても予約がない場合は、待ち時間が長くなることや当日の受診ができない場合もあります。

**呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、
消化器内科**は、**完全予約制**となっております。

必ず地域医療連携室を通してご予約をお取りくださいますようお願いいたします。

当日の緊急受診が必要な患者様におきましては、できる限りお受け入れできるよう調整いたしますので、**地域医療連携室にご連絡いただけますようお願いいたします。**

オンライン予約システム（C@RNA Connect）をご利用ください
（事前に申し込みが必要です）。詳しくはホームページまたは地域医療連携室にお問い合わせください

地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

TEL：072-957-2121(代)

<院内診療科のご案内>（令和7年4月現在）

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科
糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科
産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科
歯科口腔外科、麻酔科(高内 裕司)、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科
臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

ホームページ

Facebook

Instagram

Official LINE

